

福津市ではSDGs(持続可能な開発目標)の考え方を踏まえた環境保全に取り組んでいます

環境掲示板

市うみがめ課 ☎62・5019 FAX43・9005
E-mail umigame@city.fukutsu.lg.jp



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

遠くて近い ウミガメのこと

秋風が心地よい9月28日の夜明け前。98の力強い生命の塊が約2カ月の沈黙を破り、前後の肢で軽快な、それでいて力強いリズムを刻んでいきます。時間の経過とともに太陽が砂浜を照らし始めると、そこには海へと続くいくつもの道筋が。小さな生命が砂浜に刻み付けた、これからの未来へと挑む決意の証しです。



▲大海へと巣立っていった子ガメの足跡

絶滅の危機にさらされるアカウミガメ

ウミガメは世界に7種類いて、そのほとんどがいま絶滅の危機に瀕しています。市内に産卵に来るアカウミガメは、環境省によって絶滅危惧種に指定されています。

1頭のアカウミガメが、ひと夏に産卵する回数は約3回といわれており、その1回の産卵数は100~150個です。今夏、市内の勝浦海岸で確認されたウミガメの卵は105個でした。

その中で孵化した子ガメが成体になれる確率は5000分の1匹です。自然界の厳しさを感じずにはられません。

その厳しさに加え、私たち人間の便利な暮らしの代償を支払うという理不尽さも、残念ながら成体になれる確率を低くしている要因です。海洋ごみはその顕著な例です。

平成23年8月に市内の海岸に打ち上げられたアカウミガメの死骸から、ビニールの紐が確認されました。不法投棄されたごみが海へと流出し、ウミガメが餌と間違えて食べてしまったと推測されます。

また、海に向かう子ガメが、砂浜に打ち上げられた海洋ごみに絡まり、身動きがとれなくなって死傷してしまうといったこともあります。

海洋ごみは、海の生き物の命を奪い去るのには十分な代物です。人間の陸地での暮らしの中で、ポイ捨てや不法投棄されたごみが海へと流れ出たことによって生まれたごみであることを決して忘れてはいけません。

この夏、巣立っていったウミガメが、30年後、福津の海岸に元気に戻ってきてくれるように願っています。自然の厳しさにもまれてしまうかもしれません。しかし、少なくとも子ガメたちの未来への決意の証しを人間が踏みにじることは避けなければなりません。



▲海洋ごみが打ち上げられた海岸